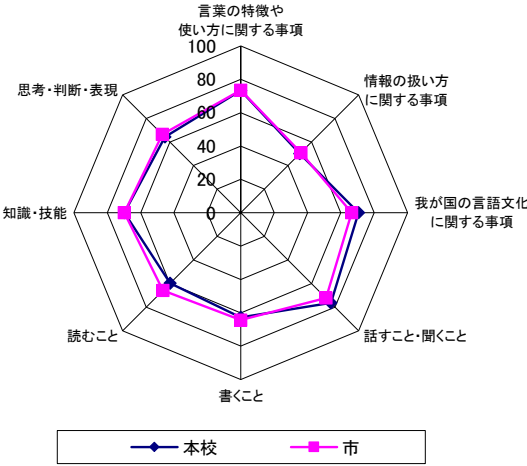


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.3	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	50.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	70.6	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	76.5	72.3	73.7
	書くこと	62.7	64.3	66.6
	読むこと	59.8	65.8	64.9
観点別	知識・技能	69.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	64.3	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

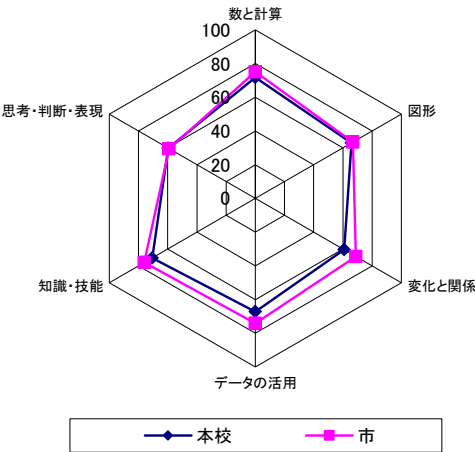
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・平均正答率は市とほぼ同じだった。 ○三字の熟語の成り立ちについて問う設問では、市の平均正答率より高く、よく理解されている。 ●漢字の読み書き問題については、正答率が高い設問も低い設問もあり、ばらつきが見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字に関しては家庭学習等で積極的に漢字練習に取り組ませたり、定期的に小テストを行ったりして、理解をより深めることができるようにする。
情報の扱い方 に関する事項	・平均正答率は市より低く、1ポイント下回っている。 ○説明文の内容から「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書いている」の設問では、市の平均正答率より高く、7.5ポイント上回った。 ●「情報と情報の関係について理解し、文章の情報を理解している」の設問では、市の平均正答率より低く9.5ポイント下回った。	・内容から読み取ったことを書くことに関しては、言語化や読み取った情報を文章に書くことを繰り返し学習する場を設けるようにしていく。 ・文章の中から必要な情報を理解するために、大切な言葉を使って短い文章でまとめるなどの活動を通して、文章の情報を理解する力を高めるようにしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	・平均正答率は市より高く、4.1ポイント上回っている。 ○語句の由来について、よく理解されている。	・新出漢字の学習や既習漢字の復習の際に、漢字の読み方が和語なのか漢語なのかを繰り返し問い、理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は市より低く、4.2ポイント下回っている。 ○聞いた話の内容を捉えたり、話の意図に応じた質問を考えたりする設問では、市の平均正答率を上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、市の平均正答率を下回った。2つの目的を書くべきところを、1つしか書いていない児童が多く見られた。	・校内放送・教師の話・グループ活動などで、普段から話の意図は問い返すことを教師が意識して引き続き続けていく。 ・話し合い活動では、議論する内容について要旨をまとめて話すよう司会者に指導したり、他者の意見の内容をしっかり受け止めてから自分の意見を述べるよう促したりするなどして、内容の理解を図っていく。
書くこと	・平均正答率は市より低く、1.6ポイント下回っている。 ○目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する設問や目的に応じた文章を簡単に書く設問では、市の平均正答率を上回った。 ●自分の意見や考えを指定された条件の中で書く設問では、市の平均正答率を下回った。	・学習の振り返りや日記指導などをこれまで通り継続して行い、書式や段落に合わせた文章が書けるよう指導していく。 ・社会や総合的な学習の時間などのまとめなどで書いたものに関しては、互いに読み合う活動も取り入れ、より簡単に分かりやすいまとめの文章が工夫して書けるよう指導していく。
読むこと	・平均正答率は市より低く、6ポイント下回っている。 ○物語文の登場人物の心情について、描写を基に捉える設問では、市の平均正答率を上回った。 ●物語文の人物像を具体的に想像する設問や、説明文の文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する設問では、市の平均正答率を下回っている。	・物語文の学習では、問いとの関係が深い文などには線を引きながら読むなどして、叙述をもとに登場人物の心情を想像し、文章でまとめる機会を設けていく。 ・説明文の学習では、学習の最後で分かったことや筆者の願いなどを短い文章でまとめることや、調べ学習で分かった結論を短くまとめて話す機会を意図的に展開していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.8	75.1	75.8
	図形	65.9	66.8	68.3
	変化と関係	60.8	68.8	65.0
	データの活用	67.2	74.1	63.6
観点別	知識・技能	70.6	76.1	75.8
	思考・判断・表現	59.6	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

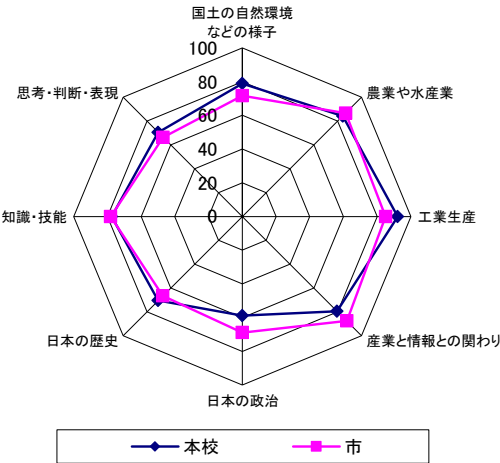
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を3.3ポイント下回っている。 ○小数×小数、小数÷小数についての設問では、どちらも市の正答率を10ポイント以上、上回った。 ●分数＋分数、分数÷分数についての設問では、どちらも市の正答率を20ポイント以上、下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の計算については、全体的に課題が見られる。分数で表された量やその操作を図に表して確認することで、通分や約分などの操作についての理解を深める。 ・朝の学習や授業の開始時などの時間を活用して計算演習を継続して行い、定着を図る。
図形	・市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。 ○「合同な三角形を作図することができる。」では、正答率が100%であり、全員正答することができた。 ●「三角柱の展開図から、見取り図の辺の長さを読み取ることができる。」では、市の正答率を15ポイント下回った。 ●面積や体積を求める設問では、全ての設問において市の正答率を下回った。	・立体図形の学習では、実際に組み立てたり、広げたりする操作活動を多く取り入れ、展開図と見取り図の関係について定着を図る。 ・面積や体積を求めることについては、全体的に課題が見られる。新たな図形の面積を求める学習では、既習の面積の求め方を復習する時間も設けつつ、既習の図形を用いて公式を考える学習活動を取り入れ思考を伴った理解になるよう努める。
変化と関係	・市の平均正答率を8ポイント下回っている。 ●「面積と数の表から混み具合を考察することができる。」では8.7ポイント、「速さと道のりから時間を求めることができる。」では8.8ポイント、市の正答率を下回った。	・単位量あたりの大きさについての学習では、数値がちがうものどうしをどのように比べるか考える活動を取り入れ、「数を揃えて比べる」ということへの理解に繋げる。 ・繰り返し問題に取り組む場を設けることで、速さ・道のり・時間を正確に求められるようにする。
データの活用	・市の平均正答率を6.9ポイント下回っている。 ○「4日間の平均から、2週間の合計を求めることができる。」では、市の正答率を5.5ポイント上回った。 ●「0があり、答えが小数になる平均を求めることができる。」では、市の正答率を19.7ポイント下回った。	・平均の学習では、ブロックなどの操作活動を取り入れ、「均す」という操作についての理解を図る。 ・平均を求める問題に繰り返し取り組む場を設け、基礎的な知識の定着に繋げる。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.8	71.6	69.6
	農業や水産業	84.3	86.7	83.7
	工業生産	92.2	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	79.4	87.7	77.4
	日本の政治	58.8	68.9	71.7
	日本の歴史	70.6	66.7	66.3
観点別	知識・技能	77.5	78.0	76.7
	思考・判断・表現	70.6	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

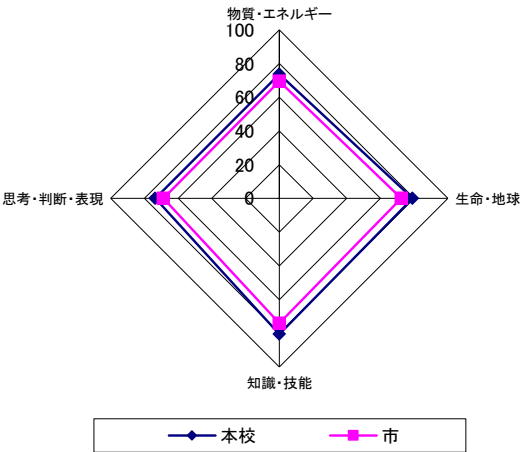
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・市の平均正答率を7.2ポイント上回っている。 ○「日本の主な地形(湖)の名称を理解している。」の校内正答率は82.4%と、市の平均正答率を8.4ポイント上回っている。 ●「日本の周辺の海洋名について理解している。」の校内正答率は、市の平均正答率を10.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について取り扱うようにする。 ・海洋名や国旗などは、練習問題を活用して繰り返し学習の場を設けることで、知識の確実な定着を図る。 ・世界地図や日本周辺の国や様子が分かる掲示物を常時掲示し、折に触れて話題にするなど、学習内容が定着するような工夫をする。
農業や水産業	・市の平均正答率と同程度である。 ○「米の生産の工程について理解している。」の校内正答率は82.4%と、市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ●「米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断している。」の校内正答率は、市の平均正答率を8.1ポイント下回った。	・教科書や資料集を活用し、図やグラフ等の資料を読み取る機会や読み取った内容を自分の言葉で伝える機会を多く設けていく。 ・引き続き農業体験と教科の関連を図りつつ、体験を基にした実感を伴った学びの機会を充実させていく。
工業生産	・市の平均正答率を7.2ポイント上回っている。 ○「自動車の製造工程について理解している。」の校内正答率は100%と、市の平均正答率を10.7ポイント上回っている。	・教科書や資料集を活用して、資料を正確に読み取る力を付けられるようにする。 ・工業製品の分類について、特徴を捉えまとめる活動を取り入れ、知識の定着を図る。
産業と情報との関わり	・市の平均正答率を8.3ポイント下回っている。 ●「情報の発信と受信の注意点について考えている。」の校内正答率は、市の平均正答率を14.4ポイント下回った。	・国語や総合など、他教科との関連も図りつつ、様々なメディアの特徴について理解できるようにする。 ・社会科のみならず、情報モラルに関する出前授業等も活用しながら、情報の発信と受信の注意点について指導していく。
日本の政治	・市の平均正答率を10.1ポイント下回っている。 ○「国民の義務について理解している。」の校内正答率は88.2%と、市の平均正答率を0.5ポイント上回っている。 ●「内閣の働きについて理解している。」の校内正答率は、市の平均正答率を18.9ポイント下回った。また、「天皇の地位について理解している。」の校内正答率は市の平均正答率を15.9ポイント下回った。	・公民的分野の言葉は児童にとって聞き慣れないものも多いため、引き続き資料集や社会科教育番組を活用して、内容をより分かりやすく伝えられるようにしていく。
日本の歴史	・市の平均正答率を3.9ポイント上回っている。 ○「縄文時代の生活の様子について理解している。」の校内正答率は88.2%と、市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●「源平の戦いの理解をもとに、資料を判断している。」の校内正答率は、市の平均正答率を8ポイント下回った。	・地図帳や資料集を活用して、歴史的事象について位置的、空間的に捉えられるよう、指導内容を工夫する。 ・教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も踏まえ、歴史的事象を多面的に捉えられるよう資料提示や活動内容を工夫する。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.7	69.5	65.2
	生命・地球	79.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	80.5	74.0	70.7
	思考・判断・表現	73.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均正答率を4.2ポイント上回っている。 ○「実験における条件制御の誤りを指摘し、説明できる。」についての設問の校内正答率は70.6%で、市の平均正答率を18.9ポイント上回った。 ●「ふりこが10往復する時間から周期を求められる。」についての設問の校内正答率は52.9%で、市の平均正答率を12.7ポイント下回った。	・比較実験の手順確認の中で、実験前後の同じにする条件・変える条件とその理由について全体で確認し、正しい実験方法について技能の定着を図る。 ・誤差を少なくするために平均を使用するという意味を理解させた上で、実験結果から得られた数値をもとに平均を求める作業を繰り返し行ったり、算数の学習内容と関連付けたりして、知識・技能の定着を図る。
生命・地球	・市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ○「かん臓のはたらきについて理解している。」の設問の校内正答率は82.4%で、市の平均正答率を20.9ポイント上回った。 ●「予想が正しかった場合の根の断面の様子を推測できる。」についての設問の校内正答率は64.7%で、市の平均正答率を7.2ポイント下回った。	・視聴覚教材を積極的に活用して学習したことがイメージできるようにしたり、単元の最後に学習したことを図やイラストを使って新聞にまとめさせたりすることで、知識・理解の定着を図る。 ・観察結果からの気づきを自分の言葉で考察させたり、全体で話し合っって共有する時間を設けたりすることで、どうしてそういう結果になったのか考える力を高める。

宇都宮市立瑞穂野南小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着が図れるようにしている。	国語の知識・技能の観点別の正答率が、市の平均正答率とほぼ同じだった。算数の思考・判断・表現の観点別の正答率が、市の平均正答率をやや上回った。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では、家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問で肯定的な回答した児童の割合はどの学年も市の平均肯定割合を大きく上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方角性

- ・各教科における基礎基本の確実な定着を図るため、次年度も継続して朝の学習の時間を活用するなどして、複数体制による指導の充実を図っていく。また、授業内においても学んだ知識を活用して考える練習問題を意図的に設定したり、個に応じた補充学習ができるような授業展開にするなど児童一人一人にとって取り組みやすい学習の場を設定していく。
- ・基本的な問題だけでなく応用問題や記述問題などに取り組むとともに、自分の考えをまとめたり、思考過程を文字で記述したりする機会を確保し、様々な問題の形式に慣れることができるようにする。そのために、自分の考えを書くために必要な視点（順序・目的・構成など）を押さえて指導する。
- ・市の児童質問紙の結果から、「一日にどれくらい本を読んでいますか。」の問いに対する肯定割合は、学校のある日は高いが休みの日は低い結果となっている学年がほとんどであった。学校では、朝の「どっぷり読書タイム」やボランティアによる読み聞かせ、さらに1週間に一度は学級全員が図書室を利用して読書の時間を設けている。一方、家庭でも定期的に「家読」（ファミリー読書）を依頼してきたが、家庭における読書時間の個人差は大きい。今後も継続して、家庭との連携を図りながら、学校全体で読書の推進に努め習慣化を図りたい。
- ・「学習と生活についてのアンケート」の結果において、肯定回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。